

1. 序論

日本語だけではなく、どの言語でも意味が似ている言葉がたくさんある、例えば、「美しい」と「綺麗」である。ニュアンスが違って、両方を見かけのいいものであることを意味するが、ニュアンスや使い方が違う。そういう言葉は類義語という。類義語というのは、音韻論的に違いがあっても、同じ意味や似ているニュアンスを持てば、その言葉は類義語だと言えると辻村（1996:307）が説明している。

全体の日本語の文法の中で、筆者にとって特に興味深いのは形式名詞の「たびに」、「ごとに」、「につけ」の使い分けである。インドネシア語に訳せば、一つの単語、「setiap」となる。これについて日本語学習者はよく混乱してしまい、正しく日本語が話せなくなる場合もたまにある。

なお、この研究では具体的に「たびに」「ごとに」「につけ」の違いや使い分けを統語論と意味論的に分析する。研究方法は「置換」である。これは、「たびに」や「ごとに」、または「につけ」が入っている文章をほかの二つの言葉に置き換え、文法や意味的に合っているかどうかを調べる方法である。

2. 本論

最初に文法について詳しく述べる。泉原（1998:609）「たびに」の文法は「名詞+のたびに」と「動詞の連体詞+たびに」である。連体詞とは、続きが必要となる言葉である。泉原は「ごとに」の文法についても、同じく「動詞の連体詞+ごとに」と言っている。もう一つの、名詞に対する文

法に関しては「N ごとに」の使用例について砂川が論文中で言及している。なお、N は名詞 (noun) の省略である。そして、砂川 (1998:446) の説明によれば、「につけ」に三つの用例があるということである。その用例は「Nにつけ」、「V るにつけ」、と「Aにつけ」である。

次に三つの言葉の意味や使い方について説明する。泉原 (1998:609) は「たびに」は「必ず繰り返し同じことが不定期的に起こる」だと述べた。また、牧野 (1995:442) は「誰か何かは何かをしたら、ほかの何かが起こる」と追加した。そして、「ごとに」の使い分けは「たびに」の反対で、周期的な文章に多く使われていると泉原 (1998:609) が言っている。また、「につけ」は「何かを見たり思ったりするたびにそれに関連して」という意味を表す (砂川、1998:446)。さらに、砂川 (1998:446) の説明によると「見る」「思う」「考える」などの動詞に付き、後ろには「思い出」「後悔」など、感情や思考に関する内容に使うということである。以下は「たびに」、「ごとに」、と「につけ」の事例である。

- (1) ア. この時のことを後に振り返るたびに、仕事好きな父の話や計画は聞いてあげればよかったという反省がある。
 - * イ. この時のことを後に振り返るごとに、仕事好きな父の話や計画は聞いてあげればよかったという反省がある。
 - ウ. この時のことを後に振り返るにつけ、仕事好きな父の話や計画は聞いてあげればよかったという反省がある。
- (『伝説のプラモ屋：タミヤ模型を作った人々』 (2007:33) より)

ア. はオリジナルの文章で、イ.とウ.は「ごとに」と「につけ」に置き換えたものである。各文法や意味の違いによって、勝手に置き換えることができないことがわかった。「たびに」と「ごとに」では、文法的には違

いはないが、「たびに」は因果を意味したりすることや、事件が不定期に起こる場合に多く使われ、周期的な文法に使う「ごとに」に置き換えることができない。しかし、「につけ」と同じ文法や似ている意味、感情と繋がる意味を持っているため、意味的に微妙にニュアンスが違うが、置き換えることができると考えられる。

- (2) ア. 「いま、みんなのお父さんやお母さんに迎えに来てもらうように、連絡をしているところです。それまで体育館に地区ごとに集まって待ちましょう」
*イ. 「いま、みんなのお父さんやお母さんに迎えに来てもらうように、連絡をしているところです。それまで体育館に地区のたびに集まって待ちましょう」
*ウ. 「いま、みんなのお父さんやお母さんに迎えに来てもらうように、連絡をしているところです。それまで体育館に地区につけ集まって待ちましょう」
(『おおかみこどもの雨と雪』(2012:49)より)

以上の例文で示されている通り、「ごとに」を使うとき、「たびに」や「ごとに」に置き換えることは不可能である。文法的な違いに注目すると「ごとに」から「たびに」に置き換える際、「たびに」は名詞と「たびに」の間に「の」が入っており、ほかの二つと異なるという特徴を持っている。また、「ごとに」は習慣的あるいは、周期的に起こる事件の文章にしか使えないことから、感情を表す「たびに」や「につけ」に置き換えようとすると、意味的に当てはまらなくなってしまう。

- (3) ア. 部下は上司の力の前には弱いもので、善きにつけ悪きにつけ、職場で最も影響を与えるのは上司です。
*イ. 部下は上司の力の前には弱いもので、善きのたびに悪きのたびに、職場で最も影響を与えるのは上司です。
*ウ. 部下は上司の力の前には弱いもので、善きごとに悪きごとに、職場で最も影響を与えるのは上司です。
(『自立型キャリア時代の実践0JT』(2004)より)

例文（3）を分析すると、「につけ」を「たびに」や「ごとに」に置き換えることができないことがわかった。上記の例文を「たびに」に置き換える際、適応しなければならないことがある。すなわち、名詞と「たびに」の間に「の」を加えなくてはならない。さらに、両方の意味や使い方が異なっている。「につけ」は主に感情的な出来事に使う。「たびに」は「につけ」と同じく、感情的な出来事に使う場合もあるが、「たびに」には習慣の意味が強く作用するため、置き換えることができないと考えられる。次に「ごとに」に置き換えると、文法的な相違がないとしても、「につけ」が持っている感情を表す使い方と「定期的に起こる事件」の意味を表す「ごとに」が合わないため、「ごとに」に置き換えることもできないというわけである。

3. 結論

元の例文 置き換え	たびに		ごとに		につけ	
	動詞	名詞	動詞	名詞	動詞	名詞
たびに			○	×	○	×
ごとに	○	×			○	○
につけ	○	×	○	○		

表 3.1. 置き換えの結果（文法）

全ページの表に詳しく分析の結果を述べている。総合的な結果は動詞に関する文法には違いがないが、名詞に関する文法にいくつかの違いが見える。その違いは「たびに」を使う文章、あるいは「たびに」を使わない文章を「たびに」に置き換えた場合、名詞と「たびに」の間に「の」を入れなくてはならない。

元の例文 置き換え	たびに	ごとに	につけ
たびに	○	×	○
ごとに	×	○	×
につけ	○	×	○

表 3.2. 置き換えの結果（意味）

表 3.2. に示したように、「たびに」と「につけ」は内容によって置き換えることができる。感情を表す「につけ」であれば、「たびに」に置き換えることができるが、習慣を表す「たびに」である場合、「につけ」に置き換えることは適切ではない。また、定期的にかかる事件の意味を表す「ごとに」は、三つの中で全く違う意味や使い方を持っているため、置き換えることができない。



DAFTAR ISI

HALAMAN PENGESAHAN	ii
HALAMAN PERNYATAAN ORISINIALITAS	iii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI	iv
KATA PENGANTAR	v
DAFTAR ISI	vii
BAB I PENDAHULUAN	1
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah.....	10
1.3 Tujuan Penelitian.....	10
1.4 Metode dan Teknik Penelitian.....	10
1.5 Organisasi Penulisan.....	12
BAB II LANDASAN TEORI	10
2.1 Sintaksis.....	14
2.1.1 Frase.....	15
2.1.2 Klausa.....	16
2.1.3 Kalimat.....	18
2.2 Semantik.....	20
2.2.1 Makna Leksikal.....	21
2.2.2 Makna Gramatikal.....	21
2.3 Relasi Makna.....	22
2.3.1 Sinonim.....	23
2.4 <i>Hinshi</i>	23
2.4.1 Teori <i>Keishikimeishi</i> (形式名詞).....	25

2.5 <i>Tabi ni</i> (たびに)	26
2.6 <i>Goto ni</i> (ごとに)	28
2.7 <i>Nitsuke</i> (につけ)	29
BAB III ANALISIS	33
BAB IV SIMPULAN	70
LAMPIRAN DATAix
SINOPSISxxvi
DAFTAR PUSTAKAxxxii
RIWAYAT HIDUP PENULISxxxiii

